

2010年 梅雨の合間、菩提樹の花との出会い

今年の梅雨の雨は長続きしない。ちょっとの晴れ間、昨年会えなかった戒壇院の菩提樹の花と出会う。



ウィキペディアには、[753年](#)（[天平勝宝5年](#)）12月26日、[鑑真](#)は[太宰府観世音寺](#)に隣接する[戒壇院](#)で初の授戒を行い、[754年](#)（[天平勝宝6年](#)）1月には[平城京](#)に到着。とありました。このとき、[鑑真](#)和上が菩提樹を中国よりもって来られ植えられたと伝えられています。

菩提樹 ^{しなのき} (科の木科) 中国原産

初夏頃、小さく黄色っぽい
目立たない花が咲く。
花房の元の部分の苞(ほう)と呼ばれ
る部分は、シナキによく似ている。

○ 釈迦がその下で「悟りを開いた」と
いうことで知られ、その由来から、
寺院の庭園などによく植えられる。
しかし、釈迦が実際に悟りを開い
たのは、桑科で、熱帯樹の
「インド菩提樹」の下。

今の「菩提樹」とは違う。
なぜ間違えて伝えられたのか？

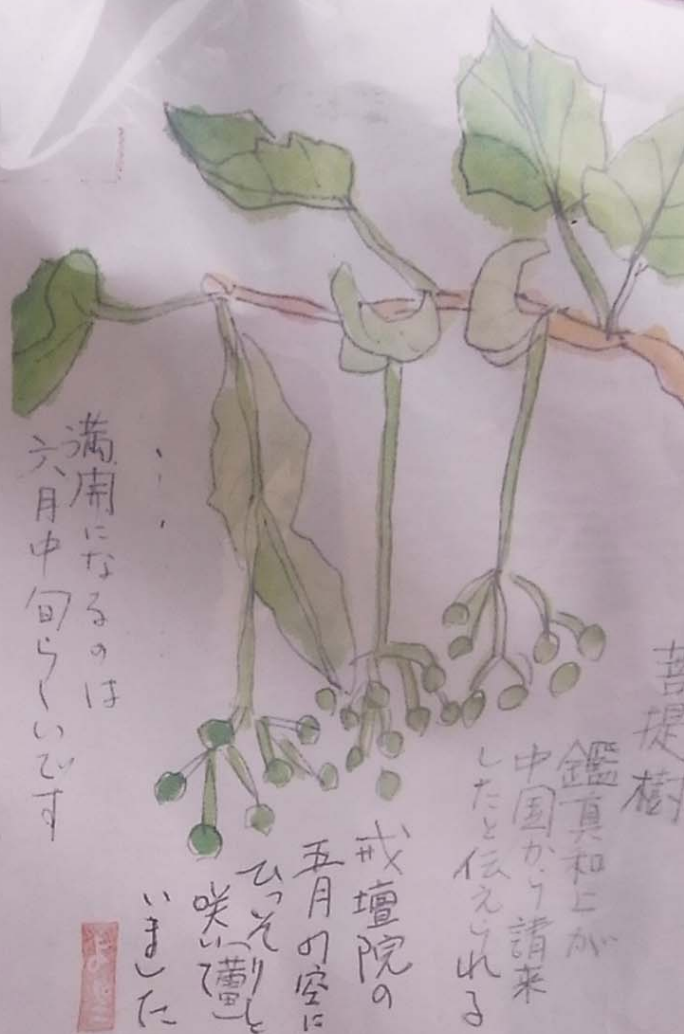
今から800年以上も前に、仏教の
禪宗を広めた僧侶の栄西せんが
中国の天台山に行き、そこに植え
られていた菩提樹を葉の形が
インド菩提樹に似ていることから、
本物のインド菩提樹だと思って日本に持ち帰って「これが菩提樹」として、
いろいろなお寺に植えたという説がある。

(ちなみに 釈迦が亡くなったのは、「沙羅双樹(さらかじゆ)」の木の下)

<整理>

- 釈迦が悟りを開いた → インド菩提樹
- インド菩提樹に間違われたのは → 菩提樹
- 釈迦が亡くなったのは → 沙羅双樹
- 沙羅双樹に間違われたのは → 夏椿

<私の花おかん> より



タイではこの菩提樹の木をよく見かけました。木の下にいると線香の香りがして癒された気持ちでした。











梅雨の合間、蒸し暑い中あるいて出かけましたが、菩提樹の満開の花に癒された一日でした。